



大久野島と私たちのこれから —ワークショップの成果より—

環境省中国四国地方環境事務所

大久野島の

「ちょっと気になること」

ウサギが増えて、観光客も増えて、魅力がいっぱいの大久野島。でも、なんだかすこし、モヤモヤすることも増えているようです。

ウサギやネコ等
の遺棄



ウサギの
個体数の増加と
疫病・負傷個体の
増加



人獣共通
感染症発症のリスク



ウサギへの
過度の接触



ネズミの増加や
イノシシの出没



ゴールデンウィークや
お盆などの
混雑期の対応



イヌなどの
ペット連れ
公園利用者と
他の利用者の
トラブル



大久野島
毒ガス資料館



島内の
自転車利用の
ルール



無断で
設置されている
ウサギの水桶



Act

合意形成の場を作りたい

自然、歴史、観光など、様々な価値を持つ大久野島のあり方を考えるために、協議会などの合意形成の場が必要です。

構成メンバーは、環境省、自治体、観光団体、民間業者、専門家、そして住民や来訪者などの個人が挙げられました。



PLAN

大久野島を訪れる際の、
共通のルールや方針を示したい

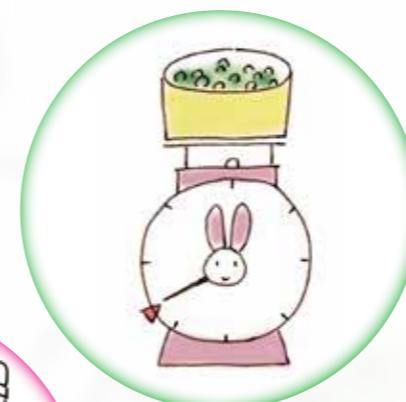
ゴミの捨て方や自転車の持ち込みなど、一般的な観光地でのルールに加え、エサの持ち込みやウサギとの触れ合いなど、大久野島固有のルールづくりが必要です。ルールづくりは環境省だけで行うのではなく、大久野島に関わる多様な主体が関わることが必要です。



大久野島の 未来づくりサイクル

定期的なモニタリングにより
ウサギ個体群や大久野島の現況を
定量的に把握したい

エサや水をどの程度コントロールすれば、
個体数がどうなるのか、という対応は分かって
いません。そのため、エサの量などは一度で
決めてしまうのではなく、専門家などによる
モニタリング成果をもとに、次のやり方を決め
ていく「順応的管理」が必要です。



共通のルールや方針に基づいた
取り組みを実施したい

ウサギとの安全な触れ合い、ウサギの個体群管
理や個体管理、平和教育の推進や弱者への対応
など、様々な課題に対応するには、基本的なルー
ルや方針に従って方法を選択しなければなりま
せん。また、ルールや情報を発信して、来訪者
と共有することも重要です。

CHECK

Do

具体的に取り組んでいきたいこと

ワークショップでは、課題を解決するための方法として37の「優先的に検討されるべき項目」がまとめられました。

このうち、緊急性・重要性が高いと合意されたアイデアを紹介します。

エサの量をコントロールすることにより、ウサギの生息数を適正密度に近付ける

現在の高密度なウサギ頭数は、ウサギ個体群に病気が蔓延や争いによるケガを招き、ウサギと触れ合った人への感染を招く恐れがあります。

将来的な適正個体数や管理方法については今後の調査や検討が必要ですが、当面の課題として、個体数を減らしていく努力が必要です。



ビジターセンターを中心に「独自の環境教育」が展開されている

大久野島は、瀬戸内海の自然に会える場所であるとともに、毒ガス製造の歴史や、ウサギをはじめとする野生生物と人との付き合い方について疑問を投げかけられる場所です。すばらしい自然を紹介するだけではなく、「自ら考える」環境教育の場を提供します。

大久野島に関する情報や訪れる際のルールが集約され、広く発信されている

関係者で作られたルールや、集められた情報は、広く発信されることで効力を發揮します。そのためには、情報を管理する拠点を定めることや、インターネットなどを通じた発信方法についても検討し、実行していく必要があります。



環境省中国四国地域環境事務所からのメッセージ

－ワークショップを終えて－

瀬戸内海国立公園は、様々な景勝地・景観要素が公園全体に点在する一方で、公園を代表するような象徴的・中核的な景観地を欠いており、やや漠とした感のある国立公園でもあります。この国立公園の、ほんの一角を占めるに過ぎない大久野島。この島に、日本国内のみならず世界から注目が集まり、国内外問わず多数の利用者が訪れるようになったことは、国立公園を管理し、また島を所管する環境省として、本来は喜ばしいことです。しかし、利用者の急増と、島の魅力の重要な要素であるウサギ達が利用者からの給餌を受けて個体数が増大したことなどによって、様々な問題が顕在化してきました。

大久野島未来づくりワークショップでは、大久野島に関心を持つ様々な立場の方々、特にお客様として大久野島を訪れていただいている公園利用者をはじめ、関係の行政や企業などが一堂に会し、それぞれが持つ問題意識や、大久野島の魅力をさらに高めていくための取組の方向性などについて、率直に意見を出し合えたと思います。

4回のワークショップを通じて、まず様々な関係者が、互いに顔の見える、今後につながる関係性を持つことが出来ました。さらに、それぞれが大久野島の状況についての知見を共有し、また問題解決に向けてのアイデアを出し合うことによって、今後の取組みの方向性を共有できました。これこそが、今回のワークショップの大きな成果であると考えます。

4回に渡るワークショップにご参加いただいた皆さんにあらためてお礼申し上げます。特に、公募に応じてご参加いただいた方には遠方からお越しの方も多く、皆さまの大久野島への思いの大きさをあらためて感じました。

これからは皆で思い描いた大久野島の未来像が実現できるよう、具体的な取組みを進めていきましょう。

大久野島未来づくりワークショップの参加者

公募参加者：15名

広島県内：竹原市、広島市（2）、東広島市、廿日市市（2）、福山市
広島県外：東京都世田谷区、神奈川県横浜市、神奈川県秦野市、大阪府大阪市、岡山県早島町、
山口県下関市、愛媛県松山市、熊本県合志市

関係団体・機関：20名

うさぎの島への玄関口 | 忠海港
大久野島ビジターセンター
大三島フェリー株式会社
休暇村大久野島
竹原市観光協会
竹原市 産業振興課
竹原市 市民生活部 市民課
中国運輸局 観光部 観光地域振興課
西日本旅客鉄道株式会社 広島支社
広島県 商工労働局 観光課
広島県 健康福祉局 食品生活衛生課
広島県 環境県民局 自然環境課
弓場汽船株式会社

アドバイザー

石丸 賢（中国新聞 編集局 論説委員室）
蒲池清士（広島観光コンベンションビューロー）
野田亜矢子（広島市安佐動物公園）
山根 積（環境省委嘱 自然公園指導員）

主催：環境省 中国四国地方環境事務所

ファシリテーション：特定非営利活動法人 環境パートナーひろしま

浦田 愛、岡崎若菜、金田龍彦、岸本このみ、河野宏樹、河野弥生、酒井 望、志賀誠治、白川勝信、
田川 享、西村浩美、延安 勇、花村育海、堀田高広、本宮宏美、本宮 炎、松原裕樹

写真：高橋美佳子 イラスト：浦田 愛

2020年2月印刷

編集・発行 環境省中国四国地方環境事務所
〒700-0907 岡山市北区下石井1-4-1 岡山第2合同庁舎11階
ホームページ：http://chushikoku.env.go.jp/nature/mat/post_21.html